

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2276200207-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するように心がけている。職員は入居者や家族との馴染みの関係を築き、大切にし入居者が安全で安心して暮らせるように支援している。又地域の祭典・防災訓練の参加、老人会との交流会、散歩時ご近所との挨拶、日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし、入居者が地域の一員として生活出来るように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者をはじめ職員の定着率の高さと有資格者が多数という環境が利用者の安心・安全に繋がっている。管理者は理念である「入居者が地域住民として、安心で安全な生活を送り、地域との交流の下であきの来ない暮らしが出来るよう介護、支援にあたります」の基、地域との交流のため、歌や踊りのボランティアで来てくれている人から老人会に声を掛けてもらい、9月の運営推進会議ではシニアクラブとの交流会を行った。組織として効率的に運営するため身体拘束委員会・接遇改善委員会他5つの委員会を設け各ユニットから1名ずつ出で全職員が委員になり役割分担が決まったことで意識が変わり、利用者が仲良く暮らせるよう、理念の「あきの来ない暮らしができるよう」目配り・気配りして支援している。</p>
--

vuusik

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し共有している。	法人の理念を事業所理念とし、理念をホールの壁に掲示している。管理者と職員は利用者が「転倒のない、拘束なく、安心して安全な生活を送る」を重点に置き、目配り・気配りに努め実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・秋祭りに参加していて、秋祭りにはホームの前で接待を行っている。	自治会に加入し、事業所の夏祭りのチラシを隣組4組に回覧でまわしてもらい参加を募っている。老人会から歌・踊りのボランティアが定期的に来ている。高校生の体験学習を受け入れ、クリスマスにケーキを作りに来てくれ利用者が飾り付けをするなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された参考意見をサービス向上に目指しています。	年間計画を立て、案内を出している。老人会に声をかけ、運営推進会議の中でシニアクラブとの交流会を行った。民生委員から消防団との交流が提案され検討している。家族の出席は固定化しつつあり、出席できない家族に議事録は開示されていない。	運営推進会議の持ち方やメンバーの呼びかけなど工夫し、外部の人々の目を通して話し合う貴重な機会として活かしていく取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが運営推進会議に高齢者支援課の職員の出席をお願いしたり、各月で行われている市のサービス連絡会に参加している。	市とは事故報告の提出や、生活保護受給者の利用者の相談・連携をとっている。地域包括センターとは困難事例の受け入れを通し連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し、身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明し、理解して頂いている。	帰宅願望が強い利用者にも、本人の気が済むまで職員は6時間歩き回ったこともあり、自宅や実家に行っても「家に帰りたい」と少しの間も目が離せず、不穏な気持ちが利用者全体に及ぶため、家族の了解を得て玄関は施錠している。職員は申し送りやミーティングで話し合い事故に繋がらないよう取り組んでいる。	

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での虐待は行われていないが高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、より一層虐待防止について徹底していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事を学ぶ機会がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご理解されるまで充分説明を行い、同意書にサイン・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一階入り口に「意見箱」を設置し、いつでも意見を投函できるようになっている。運営推進会議・家族の面会時に意見を伺い職場会議に反映するようにしている。	運営推進会議のランチ会や面会時に話を聞き、来られない家族には電話で様子を伝え意見を聞いている。3ヶ月で自宅復帰することが目標で入居した利用者について、余裕をもって外泊を繰り返し自宅に慣れていけるようにと家族に意見を聞きながら話し合いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で意見や提案を反映できるよう職員の意見を受け止めている。	環境衛生・感染症委員会は、インフルエンザシーズンに向け感染予防対策を調べて掲示した。各ユニットから1名ずつ出て7つの委員会を設置し役割分担を試み、動き出しはこれからである。職員の研修会、勉強会等への参加要望に反映されるよう検討している。	内部委員会の役割の明確化と実践、職員のスキルアップのため、内部、外部の研修会・勉強会への出席を促し取り組んでいくことに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入をしたりして職員のモチベーションが上がるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けられる人は一部の職員ですが職場研修は毎月のユニット会議に行っています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会にて交流する機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が不安や、困っている事を汲み取り、安心して過ごせるように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・希望等なんでも相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の必要としている事をその都度話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることはお手伝いしてもらい、無理な時は強制しないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間の取れるなら面会にに来ていただき本人とのコミュニケーションがとれる様情報も報告出来るなどに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医院に通院したり、家族、知人の面会や電話でのやり取りが心よくできるような雰囲気になっている。	お花を教えていた利用者にお弟子さんが会いに来たり、元教師の同僚が訪ねてくるとお茶を出して接待している。話が出来なくても「顔を見て良かった」と喜んでもらっている。家族、知人が来たとき居間で他の利用者と一緒に交流することが多く、馴染みの関係になっている。	

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物をたたんだり、食事の片づけをしたり、習字・カラオケ・散歩・ドライブ・昔話を話したり入居者同士が関わり合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者の家族より相談があった時は応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報と入居者本人がどのように暮らしたいか声かけしてできる限り実現出来るようにしている。	思いを言葉で言える人は少ないが、表情の細かな変化から読み取り、声掛けに工夫して引き出すように努めている。生活歴や家族関係を把握し、気持ちに寄り添いながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴・家族歴の資料を参考したり、入居者との会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、入浴・外出と本人のペースにあわせて暮らしを支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングで入居者の生活状況を話しあったり、家族に相談したりしている。	概ね長期目標は1年、短期目標は半年だが状態の変化で見直しをしている。職員は毎月全利用者の支援方法について話し合っていて、職員の意見を参考に家族の意向を取り入れて作成した計画書を家族に送付し、確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を記入して職員間でケア内容を共有実践している。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に目配り・気配りをしその時々状態に合わせ、外出・習字・カラオケなどをする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる歌や踊りの観劇を通じ、豊かに過ごせて頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を伺い通院できないときは職員が同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。	今までのかかりつけ医を継続したり、往診可能な医師に変更している。バイタルなどの情報をメモで渡し、他科受診も家族が同行し結果は看護師が聞いているが、家族が行けない場合や緊急時は看護師が同行で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の食事量や水分量に気を付けている。体調面で気が付いた事等は看護師に伝えアドバイスを受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はかかりつけ医院・医療機関・家族と情報を頂き、退院時には医療機関より介護サマリーを依頼して安全に生活出来るように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する事は施設で出来る事と家族の方針を話し合い、医師・家族・看護師・介護職が終末期を支援しています。	契約時に看取りの指針を説明し同意書をもっている。急変し診断書が出た時点で家族と話し合いをして意向の確認をしている。看取り計画書を作成し、医師や看護師、職員が協力し、医療行為のない自然な看取りを経験している。職員の力量はあり、サポートをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを作成している。急変時・事故発生時には対応マニュアルの手順にて実施している。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設にて防災訓練を年2回実施している。	火災・地震の日中を想定した訓練を実施し、年1回は消防署がきている。独自に行った夜間想定訓練では、2階の利用者の避難方法について課題が出ている。掛川パートナーシップに認定された災害時の受け入れを表明し、運営推進会議で消防団との交流を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ・入浴・着替えなど失礼のないようプライバシーを考慮し、入居者に圧力をかけた話し方、行動をとってははいないか、普段から気を付け穏やかに対応している。	本人・家族から希望の呼び名を聞いていて、男性は苗字で、女性は名前で声掛けをしている。方言を交えながら親しみのある言葉で利用者の状態を見ながら、否定をしない、気持ちを損ねないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の現在の生活の物足りなさを少しでも埋められるよう入居者から主張してもらえるような話しかけて希望に応えられるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マニュアルに合わせるのではなく、時間の許す限り入居者一人ひとりの満足、ゆとりを考えた、誘導・介助・話しかけを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を考え、着やすさ、洋服の組み合わせ方など喜んで頂けるようにし清潔で、気持ち良い状態を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の健康を考えて盛り付けを工夫したり、満足できる量をゆっくり気分よく食べられるよう支援しています。	1階のデイサービスの厨房で作った昼食が届き、個別に合わせた配膳をしている。朝・夕食は各ユニットで1週間分の献立を立て職員が作っている。「故郷」を歌った後利用者が毎日順番で「いただきます」を言って、職員も同じ物を一緒にテーブルで食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を把握し、水分量が少ない入居者は本人が一番飲めそうなものを工夫し、自己摂取できない入居者には介助を行う。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいを行い、就寝前は入れ歯を洗浄し管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけ、誘導と自立に向けて支援している。	立位困難な1人以外はトイレで排泄をしている。布パンツで自立している人もさり気なく見守りをしている。トイレが気になり頻回に行きたい人の状態を職員間で共有し、寄り添いながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動や散歩を心掛けると共に水分摂取にも注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調、希望にあわせて入浴できるよう支援している。	午前中に3人くらい、概ね2~3日おきに入浴するようにしている。強い拒否の人は今はないが乗り気でない場合は言葉掛けに工夫して誘導している。身体状態を把握し、順番を決めていて2人入ったら湯を入れ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調と及び状況を見極めその人に合った支援をしている。又安眠できるよう布団干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示、内服の説明書を見て理解し、内服が確実に出来るように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌ったり、カレンダーの色塗り、習字をしたり、本人の趣味をいかしたり、月に一度の行事に参加している。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望があれば散歩に出かける。又年間行事に基づいて実施している。	天候を見て、テラスや日当たりの良いところに椅子を出し外気浴をしたり、畑で椅子に座り野菜の作り方を指導してくれたり、手の届くところの草取りをすることがある。近くの公園への散歩や車で花見等に出かけている。家族と受診の帰りに外食をすることがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は現金の所持はしていないが、事務所金庫で預かっており本人が買い物をしたときは一緒に出掛け支払いをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	色々な行事のお便りを家族に送ったり、希望のある方は入居者自ら電話をする。(職員見守り)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に清潔を保つよう掃除している。日差しの取入れ、遮光を常にブラインドで調整しています。	玄関・ホールには職員が自宅から持ってきた生花が飾られ四季を感じることができ、オープンキッチンから食事のいい匂いが漂う、気になる音や臭いはなく、不必要に飾りをつけていない空間になっている。ベンチやソファを置き横になったり寛いで過ごすことがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見る人、ソファに座り休んでいる人、話をしている人、それぞれ自由に行動してもらい安全を見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーを居室に飾っている。居室の清掃や温度調節もその都度確認している。	備え付けの大きな収納スペースに衣類や雑貨が整理され、奥行きが深い棚にテレビや家族の写真等が飾られている。ぶつかる物はなくどの部屋も整然としている。担当職員が衣類の衣替えやオムツ等の管理、清掃をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の様子が視野から離れないように全体を見渡しながら支援している。施設内の障害物は片づけ、手すりを使い行動できるよう安全性を考慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティ掛川		
所在地	静岡県掛川市杉谷1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhyou detail 2015 022 kani=true&JigyosyoCd=2276200207-00&PrefCd=22&VersionCd=022>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するように心がけている。職員は入居者や家族との馴染みの関係を築き、大切にし入居者が安全で安心して暮らせるように支援している。又地域の祭典・防災訓練の参加、老人会との交流会、散歩時ご近所との挨拶、日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし、入居者が地域の一員として生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・秋祭りに参加していて、秋祭りにはホームの前で接待を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行われていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された参考意見をサービス向上に目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の交流はあまりないが運営推進会議に高齢者支援課の職員の出席をお願いしたり、各月で行われている市のサービス連絡会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し、身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明し、理解して頂いている。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所での虐待は行われていないが高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち、より一層虐待防止について徹底していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これらの事を学ぶ機会がありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご理解されるまで充分説明を行い、同意書にサイン・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一階入り口に「意見箱」を設置し、いつでも意見を投函できるようになっている。運営推進会議・家族の面会時に意見を伺い職場会議に反映するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で意見や提案を反映できるよう職員の意見を受け止めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入をしたりして職員のモチベーションが上がるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けられる人は一部の職員ですが職場研修は毎月のユニット会議に行っています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡会にて交流する機会がある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	朝の挨拶から明るく、優しく対話するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事、要望等相談を受けたときは、出来る事、分かる事を伝え添うようにしたいと思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、入居者とのコミュニケーションに努めいつも同じ態度で接している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	我が親ならば、どうしたら喜び、平穏に過ごせるだろうかと念頭に置いて、対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てくださっていることを伝え、大切に思っている事も一緒に伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方の面会、会いたいと思っている方がある事をご家族に伝えるようにしている		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの席等、気の合う方同志近い席にして、コミュニケーションを取りやすくする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者の家族より相談があった時は応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寝付が悪く朝起きられない方は他の入居者より遅く起床の声掛けをする。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時記入して頂いた「入居者基本情報」を参考する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の傾き、坐位が保たれてない方は、食事・おやつ以外はソファで楽な姿勢で過ごして頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回ミーティングを開き、スタッフの意見交換、話し合いを行い入居者の暮らしやすい介護に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通院記録に医師の言葉・入居者連絡ノートに日々の気づきを記録する。そのノートを勤務に就く前に目を通す。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者に目配り、気配りをし、その時の状態に合わせて外出したり、カラオケをしたりする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・買い物時、地域の方との交流、ボランティア観劇を通じ暮らしに豊かさが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が適切な受診が出来るように、個々の主治医を受診の際は看護師が同行し、医師・家族との連携を保てるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の食事量の把握、薬、アレルギーにより食べれないものや、水分量に気を付けている。健康面で気付いた事を看護師に相談しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が安心して治療できるように家族と連絡を取っている。入退院時には医師・家族・看護師と情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書を家族から頂いている。医療機関や家族との連携で、状況の変化に合わせて出来る限りの支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルを作成している。急変時・事故発生時は対応対応マニュアルの手順にて実施している。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設内で防災訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対して否定的な言葉や対応をしないように一人ひとりに適切な言葉や対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから決めつける事なく「どうしましょうか」などと本人の思いや希望を聞くように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の話を聞くなどしてその人に合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を着替えるときは職員と一緒に選びその人が着たいものを選ぶ。男性には髭剃りを自分でやれるよう声かけをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と入居者が一つのテーブルに座り雑談をしながら食べる。入居者が出来る準備や片づけを職員と一緒にやる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事量の把握し、薬やアレルギーによって食べれないものや水分量に気を付けています。		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声かけをし、出来ない方は職員が、見守り・介助する。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導する。記録に基づき声かけをし、支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を適時に行い、軽い運動や散歩も心がけて行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望・体調に合わせて入浴してもらい、入浴しない日が少なくなるように支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて声掛けし、居室で休んで頂いたり、ソファで休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示、薬の説明書を見て理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事を生活の中に取り入れ、楽しめるよう支援しています		

静岡県(グループホームサンシティ掛川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ散歩に出かける。他の外出は年間の行事計画に基づいて実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のお金は事務所金庫にてお預かりしており、入居者が買い物したい時は職員と一緒に付き添っていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事便りを各ご家庭に郵送している。又職員見守りの中で本人がTELを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に掃除をしたり、常に清潔を保つようにしています。また花など飾ったりと、季節感を出し心とむむように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビ視聴する人、ソファで寝ている人、居室にて休息している人など、皆、自由に行動しているのでその安全をしっかり見守りしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの想いで飾られている(「写真・ぬいぐるみ・花」)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置している。その人に合った事をして頂き安全生活できるようにしています。		